

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 マミーハウス幸 グループホームマミーハウス幸	評価実施年月日	平成19年5月1日
評価実施構成員氏名	取締役 岡山寿子 管理者 岡山公博 ケアマネージャー 近森秀代 職員 長塚比登美 中道秋枝 増田直子 佐藤憲子 永山裕之 早川洋子		
記録者氏名	岡山 公博	記録年月日	平成19年5月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の中に地域に根ざす部分がやや欠けており、今後理念の変更も含めて、考えている		地域に開かれた運営であるように取り組んでいきたい
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	共有については管理者自体、経営者自体が手探りの状態であり、職員と共有するに至っていない部分がある		職員全員が一丸となれるような、理念をあげて、それを共有していきたい
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族のいない人が多く、家族会が存在しない これによって地域への関わりもしづらい状況でもある		家族会の有無に関わらず、地域と関われるような支援をしていきたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣に対して、存在のアピールは行っているが、気軽に立ち寄ってもらえる状況とはなっていない		今後地域との関わりと共に、訪れてもらえるような運営もしていきたい
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	身体的状況があまり良い人が少なく、地域活動への参加はできていない		現在、市内の歌のボランティアさん等に来てもらったの交流があり、このような形でも地元との交流の形を保っていきたい
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員それぞれの状況の把握ができていない、地域の資源についてもまだ知らないことが多く、有効に利用しているとは言い難い		事業所の力、職員個人の力、地域の資源...などについて理解を深めて、有効な利用法について模索していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価についての知識と認識が乏しく、取り組みに生かせる状況にはない 管理者の今後の教育が必要と思われる</p>	<p>自己評価・外部評価の意味を理解し、より良い事業の指針となるようにしていきたい</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議自体が機能しておらず、運営側の早急な改善が必要</p>	<p>運営側の早急な対応が必要なので、そのように努力していく</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市側の担当者にお気遣いいただき、市との対話の機会を設けていただいている</p>	<p>サービス向上につながるよう、生かしていきたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が、機会をもってセミナーなどに参加することによって理解を深める努力をしている</p>	<p>全職員に周知徹底できるよう、勉強会などの機会をもちたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待0のままの運営を行っている 今後も防止に努めたい</p>	<p>「虐待」の定義自体が年々変化しており、継続的な勉強が人用と思われる</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、本人・家族に説明の上捺印という方法での確認を行い、いつでも不明な点については尋ねてもらえるよう配慮している</p>	<p>説明責任について、プライバシーなどにも考慮していきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	目に付くところに意見箱を設置 いつでも様々な意見をいただけるように配慮している また日常でのリサーチも指示している		頂いた意見について、論議し、これからの運営に役立てたい
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	可能な限り報告している		これからも続けて生きたい
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問時すぐ目に付くところに意見箱を設置、いつでもすぐにご意見・苦情等をさまざまな形で訴えていただけるよう配慮している		指摘等あれば、厳粛に受け止めて運営に役立てたい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	なるべく生の意見を新鮮なうちに聞きたいが、管理者の業務が多忙な為、十分にできていない		もっと職員の意見に耳を傾けるよう、心がけていきたい
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者・経営者がカバーに入って、柔軟に対応している		管理者への負担が多いように感じるが
職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職が発生しそうな時は、ショックが少なくなるような心がけを職員全員で行うようにしている		離職者と利用者との繋がりについて、もっと把握していきたい
5. 人材の育成と支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	インフルエンザや、食中毒などの時期的な重要事項については、保健所や市役所からの資料を基に、全員に周知徹底を行っている		介護技術や認知症そのものについての勉強が足りないと思うので、今後も続けて精進したい
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	管理者が多忙で、同業他社とのコミュニケーションは円滑に取られていない		懇親会等にも参加して、意見交流の機会を持ちたい
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	職員のストレスに感じることに、生の意見を聞きつつ、全員でその問題について取り組んでいけるよう話している		個人間や感性の問題など、プライベートな問題については、管理者が中間に入って和解できるよう関わりたい
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	運営者は別施設の運営・経営と多忙につき、管理者や職員について目の届かないところも多い		経営者と職員間のコミュニケーションについて、もっと機会をもって円滑に業務が進むようにしたい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	本人・家族を交えて、何をニーズとしているのか掴んでいきたい		アセスメントにセンター方式を取りいれて、初期のニーズが早期に理解できるようにしていきたい
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	本人・家族を交えて、何をニーズとしているのか掴んでいきたい		ご家族との個別のお話の時間が取れれば尚良いと思うのですが

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	あまり新しい利用者の受け入れについて、職員全員が不慣れである		勉強会等への参加で、さらにスキルを磨いていけるのが理想なのですが...
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	説明について、なるべく分かりやすい言葉などが選べるような訓練が必要		普段からの生活支援の中で、高齢者には難解な言葉などについて把握して、諸々の説明の時に生かしたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	過度な介護にならないようにしているつもりだが、振り返るとやはり過度な介護になっている様子が見られる		ご本人のできる範囲について把握して、最適な程度のサービスが提供できるように、心がけたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族のいない人が多く、家族との関わりについてはいろいろな面で難しい点がある		想定されるシミュレーションは可能と思われるので、機会を持ってみんなで考えていきたい
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	比較的預けっぱなしで関わりを持たない家族も少なくない		遠隔地についてはお手紙など、また可能であれば電話などの手段も考慮する必要があると思われる
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の暮らしについて、未だ未知の部分があり、馴染みについての理解が不足している		アセスメントや、家族からの聴取を行い、できるだけ利用者様の生活について把握する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	自然体な利用者同士の関係について理解している		職員の関わり方について、常に過度な干渉がないように心がける
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了実績がないので分からないが、地域包括センター等の資源の利用で、退所後も途切れることのないようにしていく		管理者・ケアマネがもっと地域との関わりについて参加して、関係を築いておく必要がある
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	不定期にリサーチを行い、希望する生活の変化などについて把握している		この結果を職員全体で確実に共有できるようにしていきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	発症前の生活について、不明な点が多い またその様な利用者様は天涯孤独な場合が多く、理解に努力を要する		親戚などの来訪時に、できるだけ聴取を行い、個人としての利用者様について理解を深めたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	不定期にリサーチを行い、希望する生活の変化などについて把握している		ニーズに応えることができているか、常に把握していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一斉に全職員があつまる機会が持ててないので、チームとしての力が弱いと思われる		職員間の情報共有について、更に努力したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態・状況変化にはできるだけ素早く対処している		見直しの機会を頻回にもって、変化には対応していきたい
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有・記録の整理について、まだ不十分		変化への気付きは早いですが、それが全体に伝わるまでの速度に問題があるように思う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	管理者が多忙で、事業所としての機能が円滑に働いていない		管理・監視の職務が果たせるように、業務改善していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアさんには来て頂いてる		地域の行事にも、ボランティアさんの力を借りつつ参加していけるよう働きかけたい
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス事業者との連携がとれていない		機会をみて、見聞を広げたい
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	他のサービス事業者との連携がとれていない		新しい制度なので、まだ不勉強である 今後はもっと繋がりを強化したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	内科・歯科・整形外科については往診していただいている また、イレギュラーな患者様発生時には対応も速い		口腔検診なども行ってもらえており、感謝している
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神症状を呈する利用者様には、早期に認知症に明るい精神科の受診を勧めている		今後も連携を強めていきたい
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診の看護職員が、馴染みの人となっており、円滑な関係を保っている		諸々の検査などの計画も組んで頂いたり、緊急の対応・ご家族への医師からの近状報告なども行って頂いている 大変感謝している
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関も、早期離床早期退院について前向きである		関係各病院様のご理解があって、万が一の入院時にも、取り計らって頂いている
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度・末期・終末期についてはかかりつけ医と常に相談している		ご家族への説明も行って頂いたりなど、感謝している
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	管理者・ケアマネが元看護職であり、職員に対して適切なアドバイスを行うことが可能		しかし前例がないので、今後も勉強が必要である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	前例がないので、どこまで可能かは未知数である		地域包括センターなどの社会資源の利用も考えていきたい
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーが保たれていけるように、お互いに注意しあって業務にあたっている		個人情報等の扱いについて、もっと慎重な管理ができるよう務めたい
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	決定の主導権がご本人にあるような言葉かけに注意している		ただし、ご本人が可能な範囲の自己表現について把握していく努力は必要
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常業務に追われている感が強く感じる		時間から時間の作業的な仕事に感じる部分が多い、もっと利用者様主体の時間の使い方をしていきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節に合わせた服がご自分で選べるように、衣替えの介助など行っている		外出や、理容の方の出張サービスなど、刺激になるように考慮している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの食事の好みの加減について、把握しきれていない		できれば調理参加などで、ご本人の好む味付けなどに理解を深めたい
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好については、お持ちの疾病等考慮のうえ、医師との連携の下に管理・監視している		やはり健康への侵害がある場合については、制限も理解していただけるような支援も行っている
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	可能な限り、オムツを減らす 介護する部分についても最小限にするなどの、気になる部分について考慮している		今後もより自然な排泄ができるような支援に繋がる勉強をしていきたい
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本来であれば、左記のような体系がよいのであるが、現在は曜日を定めさせて頂いている		事情で入浴できなかった等の状況には、臨機応変な対応はしたい
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠は比較的保たれている		不眠・途中覚醒等については、投薬を含めて考えていくようにしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	各自が熱中できるような「何か」を発見できるような支援をしている		固定概念に囚われなくて、様々なものに挑戦させてあげられる支援がほしい

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご本人の管理能力の把握について、まだ不十分である</p>		<p>ご本人の管理能力について、もっと把握した上で、適切な支援ができるようにしたい</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>各個人の認知症の進行度にもよりますが、可能であれば外出できるようにしているしかし、一人では外出できないような場合にあっても、機会をもってデパートなどの施設に外出の機会がもてるよう心がけている</p>		<p>近所への簡単な買い物などについても、それができそうな援助について、学んでいきたいと思う</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>ご家族のいらっしゃる方については、ご家族とのおでかけの機会をもっといただいで、宿泊型の旅行などしていただいている</p>		<p>施設単位としての実践はできていない、人間的にも経験的にもまだ可能ではない</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>年賀状など、季節の便りという機会で、手紙や電話ができるように、支援している</p>		<p>日常の場合において、あまり積極的に取り組んでいなかったため、これからは視野にいれて取り組んでいきたい</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会時間を長めにしており、いつでも可能な限り、ご家族やお知り合いと面会が可能な状態にしている</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、現在0で経過しており、今後も継続していきたい</p>		<p>身体拘束の解釈については様々であるため、今後も継続して勉強していく必要はある</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアは、現在実践中である		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に念頭において業務にあたっている		今後も勉強し、よりよい環境となるようにしていきたい
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	著しく危険なものでない限り、ある程度ご本人の自由に所持してもらっている、トラブル発生時に改めて絶対的に必要かどうか検討している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃から全体的な指導は行っているが、一人一人のスキルはあまり高いとはいえない		誰しもが一人の状態でも適切な状況判断ができる様にしていきたい
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は定期的には行われていない		管理徹底し、全職員が万全の体制となるようにしたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	対策については、昼間には対応できると思うが、夜間については不安である		災害時、常に対応できるよう対策したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	著しいリスクについては、医師などの協力の下にご家族への説明など行っている		ご本人への理解していただく方法について、いつも模索している
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	勤務帯での連絡ノートの活用によって、異常についてはできるだけ速やかに全員が把握できるようにしている		把握できても、対処できない部分が多いので、日頃からの勉強をしていきたい
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については、できるだけ確認しやすい方法で、投薬ミスのないようにしている		薬の特性や副作用についての勉強は必要と思う
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬だけではなく、食生活や運動なども視野にいれている		今後も続けていきたい
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	訪問歯科による、口腔検診などを活用して、病的異常の発見に努めている		日頃の支援については今後も続けていきたい
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量の把握については、日頃から情報交換している		著しく偏った趣向についての対応を勉強していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所などの資料に基づき、予防や対応について周知している		インフルエンザ発生0が数年に渡って続いており、今後も継続されるようにしていきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	噴霧式アルコールなどの活用によって、洗浄だけでなくより清潔な環境となるように配慮している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関付近には花壇など、親しみやすい環境となるように務めている		地域へのアピールが必要と思われるので、そういった点で今後取組んでいきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を飾るなど、ちょっとした事ではあるが、快適な環境となるように努力している		もっと季節感を持たせたいと、日頃からおもっている
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ちょっとしたベンチや、ごろ寝できる畳スペースなど、フリーで使用できる場所については考慮している		その場所の安全性や、快適性については、常に考えておきたい
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人愛用のものについては、危険が無い限り・居住スペースが侵害されない限り、身の回りにおけるようにしている		古すぎるものについての整理がなされていないことがあり、注意が必要

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日に数度、機会をもって換気を心がけている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物自体の規格が古いので、少々不便なところもある		手すりの増設など、ハード面で改良が可能なものについては、経営者も交えて考慮している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「さりげない支援」ができるようにしたいが、なかなか満足いくレベルではない		もっと自尊心やプライバシーに考慮した方法で、支援していきたい
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関付近の花壇は利用者様の努力の賜物であり、自慢できる点でもある。また簡単なベンチの設置なども行っている		建物全周囲について行えていないが、立地条件もあり限られている

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

自然が多い場所に建てられており、都会の騒がしい雰囲気から離れて、ゆっくりとした時間を過ごすことができる場所であると思っています